

概要

- 台湾の遺伝子組み換え作物及び食品の現状
- 台湾遺伝子組み換えの民間反対運動
- 現在の課題
- 今後の目標

2

2021台湾NON-GMO運動について

報告者 | 台湾無基改推進連盟
日 付 | 2022年2月

1

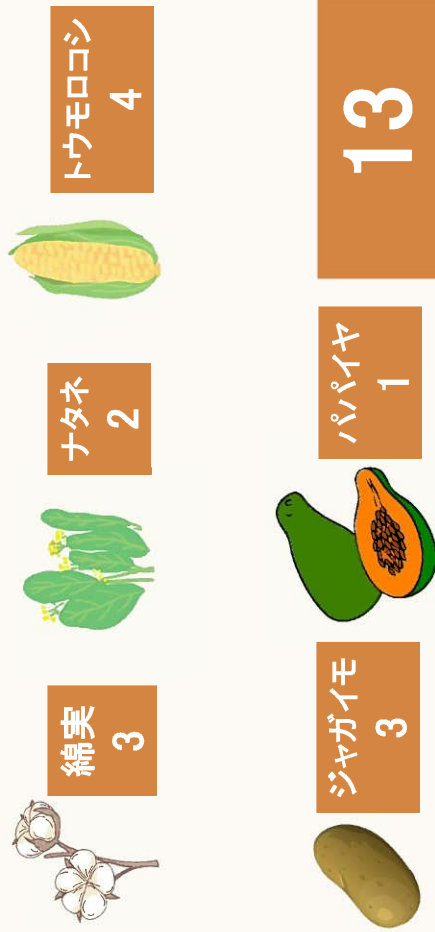
審査に通った遺伝子組み換え食品の原料



3

157
(2021年2月15日)

遺伝子組み換え食品の原料審議中の案件

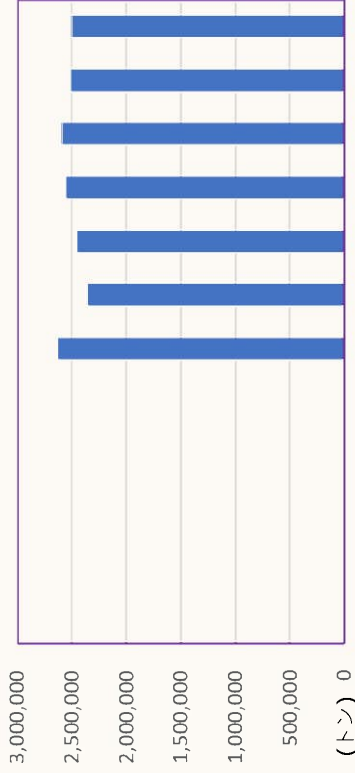


4

13
(2021年2月15日)

台湾の遺伝子組み換え大豆の輸入量

台湾の遺伝子組み換え大豆の輸入量は毎年約250万トン
用途：飼料、食用油、食用（約20万トン/年）



2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

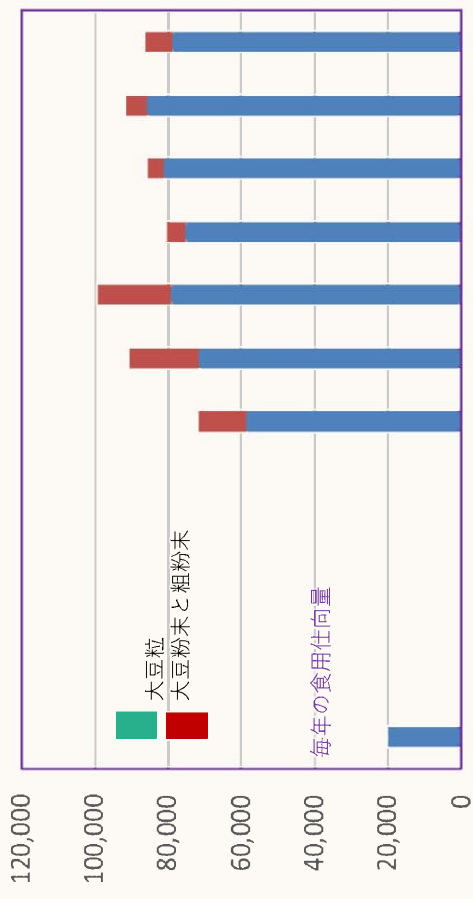
5

台湾の遺伝子組み換え大豆の輸入量

- 2014年に食品安全衛生管理法の改正が成立したことを受け、台湾では2014年末から輸入大豆製品を遺伝子組み換えと非遺伝子組み換えの2つに分類するようになった。
- 2019/2020年、税関は飼料用遺伝子組み換え大豆粒、遺伝子組み換え大豆粒の2カテゴリーを追加したが、食品用遺伝子組み換え大豆や非遺伝子組み換え大豆の追加は拒否している。
- ここ数年、飼料用として輸入された遺伝子組み換え大豆粒は3000トンに満たず、非遺伝子組み換え大豆粒は2020年の500トンのみ、2021年にはまたなくなった。

7

台湾の非遺伝子組み換え大豆の輸入量



2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

6

台湾の非遺伝子組み換え大豆製品の現状

- 食用の大豆製品に使われる遺伝子組み換え大豆の割合は、2008年の約90%から2021年の約55%に下がり、非遺伝子組み換え豆乳や豆腐製品の割合が比較的高く、非遺伝子組み換え豆干（押し豆腐）のほうが比較的少ない。
- 遺伝子組み換え大豆製品を口に入れたいためには、購入前に表示を確認しなくてはならない。市販の包装豆干で遺伝子組み換え不使用のものはまだ少数にとどまっている。レストランで食事する場合はお店に確認する必要がある。

8

台湾ゲノム編集作物の課題

- 現在、台湾では、行政当局のゲノム編集作物・食品の議論は主に座談会形式で行われている。
- また、政府主催の座談会では、「ゲノム編集技術」が「新興精確育成技術」と呼ばれるようになっている。
- ゲノム編集作物・食品について、政府は静観の姿勢をとっている。急いで開放する動きが見られていない。

9

NON-GMO小冊子共有会

- コロナを受け、台北、新竹、台中、台南で対面とオンラインの共有会を2回ずつ行い、生活協同組合の組合員や一般市民に最新のGMO情報を共有した。
- 遺伝子組み換え・ゲノム編集作物およびその作付けがもたらすリスク、環境や人体への危害、支持者と反対者の論点など、小冊子の内容を紹介し、参加者に遺伝子組み換え食品事情を知ってもらった。



主婦連盟基金台中分会にて



新竹竹とんぼマーケットにて

11

NON-GMO小冊子共有会



10



電子版
ダウンロード

第4回SEED & LIFE FESTIVAL: フォーラム、全国種子交換会



12

(一)

2021/12/25 第4回SEED & LIFE FESTIVAL及び全国種子交換会が12月25日と26日に行われた。

(1). フォーラム



- 稲作について、日本の稲作農家と台湾の原住民の稲品種に対する貢献、日本140種の在来稲の栽培法則、有機育成稲（桃園6号）
- 原住民の種子保全について、その他について、種子保全と干ばつに強いレジリエントな農業、SATOYAMAイニシアティブと種子保全、農家による絶滅危惧植物の種子保全

13

(2). 種子交換

- 今年台北、高雄、台中、宜蘭で対面とオンライン交換を行い、のべ253人が参加し、1933袋の種子を交換した。



種子交換会現場での説明や呼びかけを通して、より多くの市民に種子保全に関与してもらい、作付けや交換者の情報交流を促し、作物の種子保全活動が台湾各地に広がるようになる。さらに多くの作物が台湾各地の生育環境に適応することはDNAのレジリエンス強化にもつながる。

15

‘縮張’

1873 広田亀治



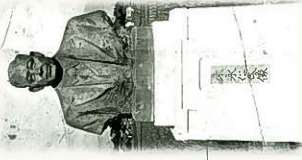
<http://iso.house.agron.tnu.edu.tw/epaper/16/02.jpg>

(亀治 X 神力)

1924

1929

台中65号



末永仁

日照時間に鈍感だった台湾原住民の陸稻 (Muteka/Nakabo) のDNAが日本種に紛れ込んだ

台中65号の貢献者

育成者：末永仁/磯永吉
農家：日本の稲作農家、台湾の原住民

14

‘程好’

丸尾重次路郎 18



<http://www.bycog-ec.jp/~nyu/nlu/ocuments/5nen/sizen.htm>



台湾出身藏人 陳章仁 (チンイニン) 氏

2021 有機農業 巡回講習

講習目的
 為每位有機農業名譽推廣員提供平台，增進有機農業推廣理念與實務知識，本講習會針對有機農業的行銷推廣、耕作管理與問題主題，透過農業專家與實務者分別處理講高單的交談探討，提升農業推廣人員、農民有關專業技能。

講習對象
 農業推廣人員、農民及農民團體

講習地點
 場上講習

報名網址
<https://reurl.cc/yG5DQU>

報名電話
 02-2653-1119

報名時間
 即日起至11/19

報名地點
 各地推廣處

報名費用
 0元

- (二)
 - 10年を経て政府はようやく民間の種子保全活動に関心を寄せ、農業委員会の下部組織である農業試験所は3年前から、毎年、2日間に亘る農民保種研修会を開催するようになったが、今年はコロナで中止となった。
 - 種苗改良繁殖場も今年から、2日間の農民保種研修会を開くようになったが、コロナで中止となった。
 - 国立台湾博物館 (2021/07/25)、花蓮县政府 (2021-10-19)、中華民国農協 (2021-10-22) はそれぞれオンラインの農民保種講演会を開いた。

16

2022年の予定



小冊子共有会を継続して
開催し、ゲノム編集管理
の課題を発信し続ける



非遺伝子組み換えの課題を学校や
教員サークルにまで広げる



市販大豆製品の非遺伝子組
み換え原材料の使用割合を
引き上げるよう、大豆製品
メーカーを説得する



種子保全の重要性を
提唱する

ご清聴ありがとうございます。

韓国 GMO 問題と市民社会の役割

<完全表示制と規制緩和への対応>

2022年3月4日

ムン・ジェヒョン (GMO 反対全国行動 常任執行委員長)

1. GMO 完全表示制の懸案

○なぜ必要なのか?

表示例外:製品に DNA やタンパク質が残っていない場合

→ 油、糖類などに表示なしで使用され放題

→「見えない GMO」が身近に存在、知る権利も侵されている

○「GMO 完全表示制」青瓦台ホームページ国民請願

文在寅大統領が GMO 表示制度の強化を公約

2018年3月に青瓦台請願を開始、21万人が参加

→しかし物価上昇、社会的議論、貿易葛藤など

食品業界の立場からの回答で終了

○「GMO 表示強化のための実務協議会」

2020年1月～現在、食品医薬処の主管

食品業界7人/市民社会7人参加

食品業界「GMO に対する消費者の認識改善を先行的に要求」

食品業界と食薬処の「一方的な Non-GMO 告示改正」の試み

市民団体の反発、完全表示制が最優先課題であることを明言

○法案発議、今期の大統領選挙公約

政党と GMO 完全表示制法案を議論中

GMO 完全表示制法案、悪用懸念のある Non-GMO 表示制度削除

全国食べ物連帯が「20代大統領公約樹立」へ参加、GMO を担当

GMO 反対全国行動「GMO 完全表示制など」の内容で政党と政策協約

2. 産業通商資源部の「GMO 規制緩和」問題

○産業通商資源部の「GMO 規制緩和」改正試み

ゲノム編集など「最新の GMO 技術」を使用した場合、

既存の規制の代わりに事前承認を受けられるように改正を試みた

ゲノム編集などの産物の場合、

リスク審査、輸入承認、生産承認、利用承認が免除

○改正案の手續きの問題

準備過程に市民の参加を排除

法は国民に該当するものなので、意見収束の手續きが必須

「形式的」に行われた公聴会にだけ参加要請があり、拒絶

(当日はボイコットとして参加、これを粉碎)

市民はゲノム編集も GMO ということは明確で、規制の緩和ではなく

強化を要求してきた。市民の意見を無視した改正案

○ゲノム編集、産資部は完璧と主張も、事実と異なる

標的離脱(オフターゲット)

遺伝子調節に干渉、意図しない結果発生の可能性高し

挿入・除去した DNA が偶然に残る場合

→上記すべて、科学的・技術的根拠による問題提起

○GMO など「新しい科学技術」の受入れに対する市民主体性の保証

技術的な問題のクリアと、社会が受け入れるのは別の問題

食べ物、食べてきた伝統的な物に不足がない

生態系汚染、環境多様性の破壊、人体リスクの議論が明らかに存在

より良い食べ物をみんなが食べたいという時代の要求に合致しない

社会的合意とともに導入し、十分な研究と徹底的な検証が不可欠

韓国の市民社会が力を集めて対応し、

昨年の韓国の GMO 懸案の悪化を、うまく防げたと思っています。

しかし、一度きりの判断と行動では足りません。

今年も GMO 陣営の、食べ物と大地に対する汚染の試みは

きっとあるはずで。

氾濫する GMO に立ち向かい、

世界中の市民社会が力を集めて、一緒に努力したいです。

ありがとうございます。

こんにちは。

ベルギーのブリュッセルから、日本のみなさんにご挨拶します。

私はマドレーヌ・コステです。スローフードのヨーロッパ事務所で働いています。すでにご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、スローフードは世界 150 カ国以上で展開されている国際的な食の運動で、私たちのビジョンは「誰もが良質で清潔、かつ公正な食品を手に入れることができる」ことです。

私たちが「良い、清潔、公正な食品」と言うとき、これは無農薬で遺伝子組み換え作物を使わずに生産された食品も意味します。農薬や遺伝子組み換え作物は、産業的な生産システムの一部であり、現在、その限界を見せています。このモデルの経済的利益は一方的で、非常に集中した産業の手に委ねられているのです。私たちは、農家が種子の所有者であり、その食物から適切な生計を立てることができるような、アグロエコロジカルな実践を通じた持続可能な食糧生産を望んでいます。農薬や種子の企業は非常に強力であり、農民を負債の悪循環に陥らせてはならないのです。

スローフードが、世界中の食のシステムから遺伝子組み換え作物や新しい遺伝子組み換え作物、つまりゲノム編集作物を排除するために尽力しているのは、そのためです。EU では比較的幸運なことに、遺伝子組み換え作物はほとんど生産されていませんが、私たちは、CRISPR・Cas のような新世代の遺伝子組み換え作物が規制されなくならないよう、戦っています。ここが、私たちが団結しなければならないところです。

遺伝子組み換えの新しい技術が開発され、産業界はそれを市場に出し、私たちの畑や食卓にのせようとしています。私たちは、消費者が遺伝子組み換え技術を使用していない食品を選び続けられるよう、そして、農家が遺伝子組み換えのない食品を生産し続けることができるように闘っていかねばなりません。世界中の消費者は、より良い食品を求め、それに値すると思っっているのですから、政府は今こそ私たちの声に耳を傾けなければなりません。

頑張ってください！

そして、良い集会を！

さようなら。

第16回 GMO フリーゾーン全国交流集会 in ひろしま・大会宣言（案）

昨年、私たちの GMO 反対の取り組みは大きな転換点を迎えました。新型コロナウイルス感染症の拡大により運動が限定される中、ゲノム編集食品が相次いで市場化されたからです。9月には高 GABA トマトの販売が始まり、10月にはそのトマトの苗の販売まで始まりました。12月には肉厚マダイと成長を早めたフグの販売が始まりました。

GM 作物や魚を推進してきた研究機関や企業などは、大きく方向転換し、ゲノム編集技術による作物や魚の開発を推し進め、政府もまた、GM 食品が行き詰まった二の舞を避けるため、規制をせず、食品表示までさせないように動きました。

ゲノム編集食品が市場化されたことで、GM 作物まで動き始め、世界で初めて GM 小麦の栽培がアルゼンチンで始まりました。政府は、GM 食品表示制度を改定して、ほとんどの食品で「遺伝子組み換え」と表示させず、消費者に選択させないように変更しました。その新たな制度が間もなく始まろうとしています。GM 作物は復活し、ゲノム操作作物・魚の開発は進み、消費者は知らないうちに食べさせられるという状況になりつつあります。

それに対して私たちは、地域から対抗する取り組みを行っていきます。それをもたらすものこそ GMO フリーゾーンの拡大です。GM 作物、ゲノム編集作物・魚、そこから作られる食品を拒否し、栽培・養殖させない、流通させない、食べないという取り組みを日本中に広げていくことで、日本の農林水産業と私たちの食卓を守っていくことが極めて大事な状況になっています。

本日、私たちは、豊かな自然と、そこで育まれた豊富な漁業資源を持つ瀬戸内海に臨む平和都市・広島から強い思いを込めて発信します。国内はもとより世界の人々とともに、遺伝子組み換え・ゲノム編集作物、魚を拒否し、GMO フリーゾーンを拡大していきます。GMO フリーゾーンの輪を広げることで、地域の農と食文化を守り、食の安全と生態系を守ります。

2022年3月4日
大会参加者一同

実行委員会一覧

◇広島水産株式会社

〒733-0832

広島県広島市西区草津港1-8-1

広島市中央卸売市場内

<https://www.hiroshimasuisan.co.jp/blog/category/log/>

◇濱本水産株式会社

〒739-0432

広島県廿日市市上の浜1-2-8

<https://www.hamasui.net/>

◇株式会社椿き家

〒729-0419

広島県三原市南方3-12-1

<https://www.tofu-tsubakiya.co.jp/>

◇旭鳳酒造株式会社

〒731-0221

広島県広島市安佐北区可部3-8-16

<http://www.kyokuhou.co.jp/>

◇遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207

https://www.gmo-iranai.org/?page_id=9

◇一般社団法人グリーンコープ共同体

〒812-0011

福岡県福岡市博多区博多駅前1-5-1

博多大博通ビルディング4階

<https://www.greencoop.or.jp/>

◇グリーンコープ生活協同組合ひろしま

〒731-5115

広島県広島市佐伯区八幡東4-41-12

<https://www.greencoop-hiroshima.or.jp/>



第16回 GMO フリーゾーン全国交流集会 inひろしま